令和５年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立飛騨神岡高等学校 | 学校番号 | ６１

Ⅰ　自己評価

1　学校教育目標	（1）「英知」「創造」「友愛」の校訓のもと、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 （2）生徒一人一人の個性と能力を伸長し、主体的に行動できる人材を育成する。 （3）高い志と広い視野をもち、地域や社会の発展に貢献できる人材を育成する。		
2スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）
	・基本的生活習慣を身に付け、自他を尊重し、様々な課題に対して諦めず粘り強く取り組む生徒 ・職業の意義について理解し、夢や希望を実現しようとする態度などを備えた、望ましい職業観・勤労観を身に付けた生徒 ・自分自身に自信と誇りをもち、地域や社会をより良くするために主体的に行動する生徒	・生徒一人一人がもつ多様な進路希望が実現できるよう、「基礎・基本的な学習内容」と「各系列の専門的な学習内容」を身に付けるための創意と系統性ある教育課程の編成 ・生徒一人一人が社会的・職業的に自立できるよう、「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の授業を中心としたキャリア教育の推進 ・生徒一人一人が自己の存在感を実感できるよう、教育活動全体を通じて、それぞれの生徒が活躍し主役となれる機会の提供	・本校の教育を理解し、自分の「夢」を叶えるための目標や可能性に果敢に挑戦しようとする意欲ある生徒 ・向上心をもち、多様性を尊重し、仲間と協働しながら主体的に多くのことを学ぼうとする意欲ある生徒 ・部活動や生徒会活動、地域活動などに積極的に参加し、より良い学校や地域を自らの手で創ろうとする意欲ある生徒

3　評価する領域・分野	◇教務　（教務、特別活動、図書）
4　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒による授業評価、保護者による学校評価において学習指導面、特別活動面では非常によい評価を得ている。また、「OPEN!飛騨神」、「白樺祭」における学校開放事業では本校の姿、魅力を十分に発信している。
5　今年度の具体的かつ明確な重点目標	1　ＩＣＴを活用した効果的な学習・授業方法の研究、校務の効率化 2　新学習指導要領移行に伴う評価の方法や学習内容・方法の研究 3　生徒の自主的な活動を啓発するとともに、一人一人が主役となることで、学校生活の活性化と、自分自身や母校、地域に誇りを持てるようにする。
6　重点目標を達成するための校内における組織体制	・校内研修・研究授業・公開授業の実施 ・教科会を主とする共通理解に基づく全職員による学習指導体制

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
1．MetaMoji、manaba や Office 関連（Forms、Teams、Stream 等）の操作やできることを理解するための研修の実施、公開授業や研究授業の実施と参加を促す 2．校務の ICT 化（Teams の活用） 3．指導要録の記載内容変更の周知徹底と、観点別評価の基準や、シラバス、指導と評価の年間計画の立案 4．生徒の様々な方面での主体的な取組みを推進し、その活動や本校の魅力を広く地域へ発信する。また、部活動への意欲的な参加を啓蒙し、支援することで部活動、学校の活発化を図る。	1．ＩＣＴに関するアンケート、授業評価 2．教職員による評価 3．観点別評価の基準や、シラバス、指導と評価の年間計画 4．ホームページ、facebook等の充実、生徒会活動、部活動加入率

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・１、２については無理のない範囲で ・３については今年度入学生より新課程となり、試行錯誤をしながら進めている ・４については昨年度に引き続き行っている。	・ＩＣＴ活用等によりわかりやすい授業が展開されている。 ・新課程の計画準備等ができている。 ・生徒の様々な主体的な取組みがなされている。	A　Ⓑ　C　D Ⓐ　B　C　D Ⓐ　B　C　D

12	○授業評価の結果は「プリントや資料、ICT 機器を効果的に使うなど、教え方を	総　合　評　価

成果・課題	工夫している」が約 93%、「自ら学ぶ姿勢で授業に向かい、意欲的に授業に取り組んでいる」が約 96%肯定的に回答しているが、この回答に甘んじることなく、常に授業研究に取り組みたい。 ▲授業内でのタブレット利用の機会は確実に増えているが、manaba の課題提出機能や MetaMoji の教材配付機能を利用した、個別最適化した学びについては、今後の課題である。 ▲新課程２年目ということもあり、観点別評価、特に主体的に学習に取り組む態度の評価についての理解、評価と評定の在り方の研究を継続的に行う必要がある。 ▲運動系部活動の活動が成り立たない（野球2人、バスケ2人　バレー2人）。今後の本校における部活動の在り方を早急に考える必要がある。	A　Ⓑ　C　D

13　来年度に向けての改善方策案
・基礎的な力が不足している生徒への対応
・個別最適化された学びの実践と研究
・教育課程の見直し・改善
・運動系部活動の在り方
・「総合的な探究の時間」と「産業社会と人間」をリンクさせ、指導内容や指導体制を更新しながら、探究的な学びを実践していく

II　学校関係者評価

実施年月日：令和６年１月２９日

【意見・要望・評価等】
・授業計画や特別活動実践への生徒・保護者の評価も高く、教育目標達成のための協議機関組織も順調に機能され、新教育課程の移行期としての計画準備や指導要録の変更周知等もされ、全職員の共通理解・共通行動の要としての活動に敬意を表します。
・授業参観のたびに感じる事として、電子黒板やタブレット端末を有効に活用したわかりやすい授業が行われていると感じた。一層の活用を期待する。
・規模の割に活動する部活動が多いので、幅広く選択できるのが良い。
・小人数ながらもたくさんの大会に出場して結果を出しているのでよいと思う。

令和５年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立飛騨神岡高等学校 | 学校番号 | ６１

Ⅰ　自己評価

1　学校教育目標	（1）「英知」「創造」「友愛」の校訓のもと、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 （2）生徒一人一人の個性と能力を伸長し、主体的に行動できる人材を育成する。 （3）高い志と広い視野をもち、地域や社会の発展に貢献できる人材を育成する。		
2　スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）
	・基本的生活習慣を身に付け、自他を尊重し、様々な課題に対して諦めず粘り強く取り組む生徒 ・職業の意義について理解し、夢や希望を実現しようとする態度などを備えた、望ましい職業・勤労観を身に付けた生徒 ・自分自身に自信と誇りをもち、地域や社会をより良くするために主体的に行動する生徒	・生徒一人一人がもつ多様な進路希望が実現できるよう「基礎・基本的な学習内容」と「各系列の専門的 な学習内容」を身に付けるための創意と系統性ある教育課程の編成 ・生徒一人一人が社会的・職業的に自立できるよう、「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の授業を中心としたキャリア教育の推進 ・生徒一人一人が自己の存在感を実感できるよう、教育活動全体を通じて、それぞれの生徒が活躍し主役となれる機会の提供	・本校の教育を理解し、自分の「夢」を叶えるための目標や可能性に果敢に挑戦しようとする意欲ある生徒 ・向上心をもち、多様性を尊重し仲間と協働しながら主体的に多くのことを学ぼうとする意欲ある生徒 ・部活動や生徒会活動、地域活動などに積極的に参加し、より良い学校や地域を自らの手で創ろうとする意欲ある生徒

3　評価する領域・分野	◇生徒指導（教育相談、保健厚生、寮務）
4　現状の分析	○学校評価アンケート(生徒)「18.基本的モラル、マナー指導」の評価において95%が身に付けさせようと努めていると回答。 ▲学校評価アンケート(保護者・運営協議会)「21.個々の生徒に対する適切な指導」「22.いじめや差別を許さず厳しく対応」の評価について「わからない」の回答比率が増加している。しかし生徒の評価は決して低くなく、むしろ高くなっている。保護者の「わからない」の回答が増加している要因として、コロナ等により多くの行事等が削減され交流や生徒の様子を見る機会が減ったことにより、学校の取り組みが伝わりにくくなっていることが考えられる。
5　学校の抱える課題	◇現状でも重視している点だが、今以上に「個々の生徒に対する適切な指導」を全職員で心がける。 ◇各行事も再開され保護者との交流も増えるので、本校の取り組みの理解を得る。
6　今年度の具体的かつ明確な重点目標	・公共心と公徳心の育成（身だしなみ、情報モラル、授業規律等） ・自他を尊重する態度の育成（いじめ防止、生徒の特性の理解と配慮、不登校支援、自尊感情育成等） ・生徒の心を正しく理解し、生徒個々に適切な教育相談活動を行う。 ・心身の健やかな成長を図る（健康管理・安全管理・環境美化） ・寮の自己管理、自治能力の向上

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
（1）きめ細かな声掛け、生徒理解の実践（身だしなみ指導、人権LHR、登校指導、ひまわり当番、教育相談週間、職員研修会、ＳＣ等専門機関・支援員との連携） （2）各種調査の実施（いじめアンケート、心のアンケート、生徒理解調査、居心地度調査） （3）健康観察、校内の美化活動と消毒作業、学校環境衛生調査、安全点検、各研修会の実施 （4）新しい生活様式の徹底、寮内の巡視、ノーチャイム日課の実施、寮内清掃活動	（1）全校生徒の登校状況、居心地度調査結果 （2）各種調査の結果 （3）保健室利用状況、清掃の行き届いた校内 （4）寮務日誌特記事項、清掃の行き届いた寮内

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・登校時、昼休み、身だしなみ指導時等、様々な場面で声をかけコミュニケーションを図るとともに生徒の細かな変化を注視した。 ・各種調査を綿密に実施し、結果は全職員で共有。生徒からの申し出には、即時対応し解決を図った。 ・安全点検の実施と環境美化	①登校状況、居心地度調査、授業規律等生徒の様子 ②各種調査結果 ③校内、寮での感染対策と環境美化	A Ⓑ C D Ⓐ B C D A Ⓑ C D

12 成果・課題		総　合　評　価
	○全職員での声掛けや生徒理解等のきめ細かい教育相談活動により、難しい生徒が多いにも関わらず昨年に比べ休学、転学、長期欠席者が減少傾向にある。 ○少ない生徒だが大きな校舎を効率的に清掃し、校内の美化を保っている。またコロナ禍以降も新しい生活様式が定着し、健康で安全な生活が送れている。 ▲成年年齢引き下げも考慮し、自ら考えることをテーマに生徒指導を進めているが、まだ幼い考えや自分本位の考えからの行動も目立ち、今後更に時間をかけた丁寧な指導が必要である。	A Ⓑ C D

13　来年度に向けての改善方策案

・きめ細かな調査は継続し、少人数である本校の強みを活かした見守り体制を強化していく。
・不登校傾向の生徒に対し、全職員で組織的に対応し、ＳＣや関係機関との連携、職員研修等も実施し、より充実した取り組みを行う。
・今年度に引き続き「自ら考える生徒指導」をテーマに、生徒自らが考え、判断していく姿勢を啓発していく。

Ⅱ　学校関係者評価

実施年月日：令和６年１月２９日

【意見・要望・評価等】

・意識調査において、「いじめや差別を許さず厳しく対応」については概ね生徒の評価が高く安堵しているが、保護者の評価において「わからない」という選択肢が高く、些か学校の取り組みや生徒の取組について理解されていない現状を危惧される。今後とも学校行事が等が平常に戻るにつれ様々な本校の取組も理解されてくると期待したい。
・学校を訪問する度に、生徒が明るく元気に挨拶してくれることに非常に好感が持てる。身だしなみも良い。
・少人数という特性を活かし、皆に目が行き届く。見守り、指導するのが魅力的で、ルールも生徒主体に考えられるのも本校ならではと思う。自主性が伸びそうである。
・居心地度調査を継続して実施していることにより生徒の状態が把握でき、もし何かあった時も早くに対応できると思うので、これからも続けてほしい。

令和５年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立飛騨神岡高等学校　学校番号　６１

Ⅰ　自己評価

1　学校教育目標	（1）「英知」「創造」「友愛」の校訓のもと、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 （2）生徒一人一人の個性と能力を伸長し、主体的に行動できる人材を育成する。 （3）高い志と広い視野をもち、地域や社会の発展に貢献できる人材を育成する。		
2　スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）
	・基本的生活習慣を身に付け、自他を尊重し、様々な課題に対して諦めず粘り強く取り組む生徒 ・職業の意義について理解し、夢や希望を実現しようとする態度などを備えた、望ましい職業・勤労観を身に付けた生徒 ・自分自身に自信と誇りをもち、地域や社会をより良くするために主体的に行動する生徒	・生徒一人一人がもつ多様な進路希望が実現できるよう「基礎・基本的な学習内容」と「各系列の専門的 な学習内容」を身に付けるための創意と系統性ある教育課程の編成 ・生徒一人一人が社会的・職業的に自立できるよう、「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の授業を中心としたキャリア教育の推進 ・生徒一人一人が自己の存在感を実感できるよう、教育活動全体を通じて、それぞれの生徒が活躍し主役となれる機会の提供	・本校の教育を理解し、自分の「夢」を叶えるための目標や可能性に果敢に挑戦しようとする意欲ある生徒 ・向上心をもち、多様性を尊重し仲間と協働しながら主体的に多くのことを学ぼうとする意欲ある生徒 ・部活動や生徒会活動、地域活動などに積極的に参加し、より良い学校や地域を自らの手で創ろうとする意欲ある生徒

3　評価する領域・分野	◇進路指導
4　現状の分析	○生徒及び保護者アンケートより ・進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている よく当てはまる＋やや当てはまる　の割合＝　保（昨年82%）⇒（今年86%◎） ・生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしている　保（昨年83%）⇒（今年85%◎） ・適した進路情報を示し可能性を引き出そうとしている　生（昨年94%）⇒（今年96%◎） ・将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている　生（昨年94%）⇒（今年95%◎） ◎進路指導に関する全項目で増加。しかし保護者の評価は生徒より進路指導に対しての評価が低い。保護者に進路指導について理解してもらえるよう取り組みたい。
5　学校の抱える課題	◇学校アンケートから、生徒本人だけではなく進路実現は、生徒本人、保護者、学校のチームで叶えるものであるという認識が弱いことが課題であることがわかる。
6　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇キャリア教育の推進、３年間の進路指導計画の改善 ◇外部教育力の活用、望ましい勤労観・職業観の形成・確立 ◇進路情報の提供、説明会の実施、ガイダンス機能の充実 ◇確かな学力の向上、指導体制の確立 ◇生徒が主体的・対話的で深い学びができるような指導体制の確立

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
（1）組織的な全体指導と個別指導の充実 （2）地方創生キャリアプランナーの活用	（1）生徒一人一人の進路実現 （2）系列選択、進路希望調査、インターンシップ

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・組織的指導および個別指導 強化学習会、進学補習、特編授業、小論文指導 模擬面接、面接指導、保護者進路説明会 ・キャリア教育 「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」活用インターンシップ、出前授業、模擬体験授業、パネルディスカッションガイダンス、卒業生講話、校内企業展、職業別探究学習、全校社会人講話、企業見学、大学見学	①進路意識を高めた。 ②外部教育力を活用した。 ③進路情報を的確に提供した。 ④学力の向上を支援した。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D

12 成果・	○（成果）「産業社会と人間」および「総合的な探究の時間」において、様々なキャリア教育が実践できており、生徒がその経験をキャリアパスポートに記録し、蓄積し、自分のキャリアプランニングに活かすことができている。 ▲（課題）様々なキャリア教育が実践できている中で、ＰＤＣＡサイクルのＣ「振り返り」Ａ「工夫・改	総　合　評　価 A (B) C D

課題	善」する時間が不足しているように感じる。ただ実施するだけではなく、生徒がその経験を深く自分の中に落とし込み、次につなげられるように取り組む必要がある。	

13　来年度に向けての改善方策案
・「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」でのキャリア教育の中で振り返りの時間を充実させる。
・生徒が主体的に進路情報を収集し自ら進路実現に前向きに取り組む姿勢を持てる指導体制をつくる。

II　学校関係者評価

実施年月日：令和６年１月２９日

【意見・要望・評価等】
・ＳＰ（ＧＰ、ＣＰ、ＡＰ）のポリシーを踏まえ、３年間の進路指導計画の実践で様々な進路情報提供、ガイダンスの実践、進路希望（夢）実現に向けた主体的な学力向上のための指導体制は、確かな成果として認識され、生徒、保護者の評価においても高い評価を得ている。今度とも是非生徒には志は高く挑戦させるためにも共通試験対策や自学自習対策指導強化をお願いしたい。
・求人募集で訪問した際、進路指導をしていただいた教師に、生徒はどのような点に魅力を感じ、何の情報を求めているかを具体的に話され丁寧に教えていただいた。進路指導は生徒の将来に関わるとても重要な点であり、引き続きご指導をお願いしたい。
・年々求人数に対して希望者が減少しているのは今後も続いていくと思われるので、地域の方々と連携していく。専門分野を伸ばしてくことの大切さを感じている。
・進路情報を生徒、保護者とも満足度が高くなっているのは保護者と向き合えてもらえてよいことだと思う。残念なのは、看護科への進学がいないので、保護者を含め、中学生をとり込めるようにしたらどうか。

令和５年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立飛騨神岡高等学校 | 学校番号 | ６１

Ⅰ　自己評価

1　学校教育目標	（1）「英知」「創造」「友愛」の校訓のもと、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。 （2）生徒一人一人の個性と能力を伸長し、主体的に行動できる人材を育成する。 （3）高い志と広い視野をもち、地域や社会の発展に貢献できる人材を育成する。		
2　スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）
	・基本的生活習慣を身に付け、自他を尊重し、様々な課題に対して諦めず粘り強く取り組む生徒 ・職業の意義について理解し、夢や希望を実現しようとする態度などを備えた、望ましい職業・勤労観を身に付けた生徒 ・自分自身に自信と誇りをもち、地域や社会をより良くするために主体的に行動する生徒	・生徒一人一人がもつ多様な進路希望が実現できるよう「基礎・基本的な学習内容」と「各系列の専門的 な学習内容」を身に付けるための創意と系統性ある教育課程の編成 ・生徒一人一人が社会的・職業的に自立できるよう、「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の授業を中心としたキャリア教育の推進 ・生徒一人一人が自己の存在感を実感できるよう、教育活動全体を通じて、それぞれの生徒が活躍し主役となれる機会の提供	・本校の教育を理解し、自分の「夢」を叶えるための目標や可能性に果敢に挑戦しようとする意欲ある生徒 ・向上心をもち、多様性を尊重し仲間と協働しながら主体的に多くのことを学ぼうとする意欲ある生徒 ・部活動や生徒会活動、地域活動などに積極的に参加し、より良い学校や地域を自らの手で創ろうとする意欲ある生徒

3　評価する領域・分野	◇中高一貫教育
4　現状の分析	○13年目を迎え、地域の方々と中高の教員が協力し、地域の子どもたちを育てるキャリア教育の推進を図ることで、地域の小学生から高校生へとつながりが広がるとともに、それぞれの取組が定着し、地域にも認められてきた。これらは評価委員会委員に浸透し、目的の理解や成果は高い評価を得ている。 ▲平成23年度から令和3年度の10年間は入学者合計が50人以上であったが、昨年度（令和４年度）より30人代と大きく減少した。連携中学校からの入学者も減少し、本年度入学生は13名であった。このような状況が続くと、学校の存続が危ぶまれる。
5　学校の抱える課題	・平成28年度より、連携中学校から本校への進学率が卒業生の50％前後であったが、昨年度は44％、本年度は約30％であった。生徒数が減少する状況において、50％の入学生を確保できるように魅力ある取組の充実を図りたい。 ・本校についての中学生の理解は向上していると思われるが保護者に関しては十分ではない。また、中学校の先生方や地域へのアピールもさらに必要である。連携活動について神岡町内に情報を提供し、さらに連携活動や飛騨神岡高校の良さを印象付けていきたい。
6　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ともに育てよう元気な神岡の子 ・連携型中高一貫教育を軸にした教育活動を展開することで、地域の子どもたちを地域ぐるみで育てる。 ・飛騨市神岡町の特色や状況を踏まえた連携型中高一貫教育を推進することで、地域の理解や協力により、地域の活性化につなげる。

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
（1）学力向上委員会 ・学習習慣の確立と学力向上に向けた取組 ・中高の生徒同士の授業交流、先輩との交流 ・進路指導や学習指導に生かす教員の授業交流 （2）交流活動委員会 ・中学生の高等学校の理解や進路選択への支援 ・地域の人や産業から学ぶ体験学習 ・生徒会、部活動交流	（1）学力向上委員会、交流活動委員会、地域連携委員会からの成果と課題 （2）年２回実施する評価委員会での評価 （3）連携中学校から本校への入学者数の増加

（３）地域連携委員会 ・地域での合同活動 ・地域をつなぐ情報発信・生徒、保護者、地域との交流の推進		
9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
（１）学力向上委員会（学習習慣の確立） ・Step by Step面談指導（2回） ・中高の生徒同士交流（先輩と語る会３回） ・教員の交流（中高教員のT.T.による授業、相互の授業参観及び実践交流・情報交換） （２）交流活動委員会（進路選択への支援） ・出前授業　・職場体験学習（説明会） ・地元企業見学 （３）地域連携委員会（地域での合同活動） ・挨拶運動　交通安全啓発運動 ・地域への情報発信	① 計画通り実施できたか。 ② 中学生の理解や中学生の満足を得られたか。 ③ 地域からの理解や地域との交流はできたか。	A (B) C　D A (B) C　D A (B) C　D

12 成果・課題	○各諸活動により、中学生は飛騨神岡高校を身近に感じるとともに、特徴や良さを知ることができる。中高の教員が中高連携の視点に立って継続して取り組んでいくことは、「ともに育てよう元気な神岡の子」の具現につながっている。 ○部活動交流や出前授業において、中学生は、身近な先輩から学ぶことで普段の授業以上に学ぶ意欲をもって取り組むことができた。また高校生は、後輩に教えることにより自分自身の学びを深めることができた。 ○ふれあい挨拶運動や交通安全運動で、中高がともに活動でき、地域貢献への取り組みとなった。 ▲各諸活動のねらいを実現するために、内容を変更したり精選したりするなど、時代にあったものにしていくことが、連携型中高一貫教育を継続していくことにつながるのではないか。 ▲交流活動を行う時は、事前に山之村中学校との連携をしっかりと取り、三校での連携であるようにする必要がある。 ▲交流活動の「交流」の認識が、中学校と高校との「交流」とだけ捉えている教員・生徒が多く、外部との広い「交流」を示すものであることを認識できていない。	総　合　評　価 A (B) C　D

13　来年度に向けての改善方策案

・第2回評価委員会において今年度できたことを振り返り、今後の取り組みをより充実させるための協議を行った。各委員会の次年度への課題は以下の通りである。

・学力向上委員会・・・取組内容（授業交流、中学2年生体験授業、先輩と語る会中2高3、Step　by Step等）を見直す。

・交流活動委員会・・・交流活動を行うときには、山之村中学校との連携をしっかりと取り、三校での連携であるようにする。

・地域連携委員会・・・もっと活発に各学校行事に参加し合ったり、意見交流することで、三校の交流と地域連携を進めていく。

・三委員会（学力向上委員会、交流活動委員会、地域連携委員会）を二委員会（学力向上委員会、学校地域協働委員会）にする。今まで実施してきた様々な取組を見直し、内容を変更、精選することでさらに良いものにしていく。

Ⅱ　学校関係者評価

実施年月日：令和６年１月２９日

【意見・要望・評価等】

・具体的な活動は計画的に地道に実践されている。中高生徒交流や面談指導、ＴＴによる教員の交流も実施されているが、残念ながら中高一貫教育の流れが本校への進学者の激減により閉ざされた状況にあり「共に育てよう神岡の子」の大事な部分が達成されていないので、今後、計画の再考も含め検討しなくてはならないのではないだろうか。

・新聞等で本校生徒が小中学校へ頻繁に出向き、交流、指導を行っている様子を知ることができる。町づくりの企画や鉱山資料館のリニューアル検討、活用などにも引き続き参加いただきたい。

・１３年目を迎えるということで、地道に長く続けていくことが未来につながるのだと思う。

・地域に対する本校の役割をもっと明らかにすることで、中学校の先生にコミットできないかと思う。本校だけでなく、地域にある公立・私立のすべての高校のそれぞれの役割を整理された方がよい。